



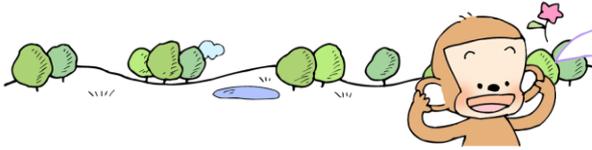
みみだより No.24

鳥取聾学校ひまわり分校 聴能担当 R3.5.17

文責：西村

新学期がスタートして早くも1ヵ月が経ちました。少しずつ新しい環境にも慣れ、子ども達の笑顔が増えたように感じます。その分、緊張の糸も緩み、少し疲れも出てくる頃かもしれません。体調管理に気をつけながら、5月の澄み切った青空のもと、元気に過ごしていきましょう。

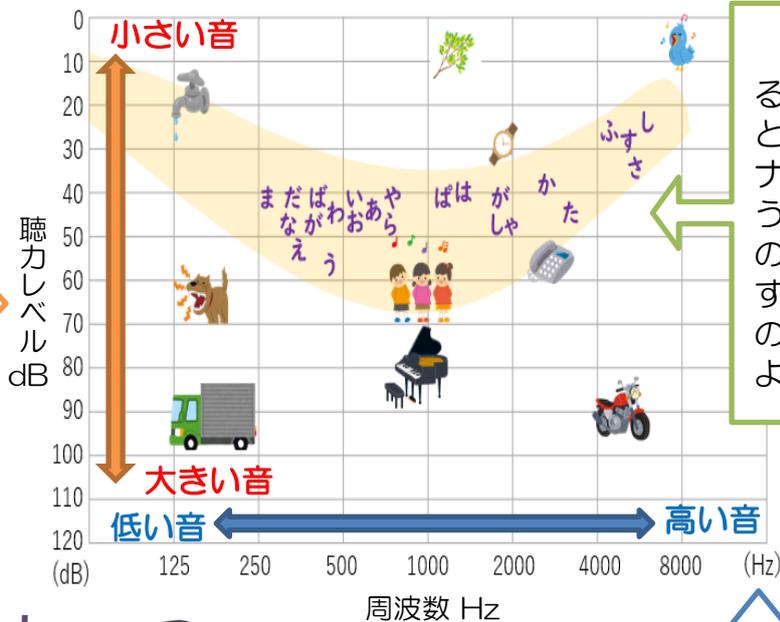
今回は、「聴力測定」について取り上げたいと思います。



オーディオグラムの見方を 知ろう！その①

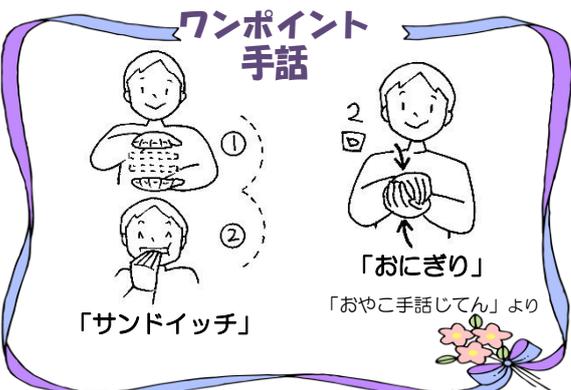
幼稚部では月1回、小学部では学期1回以上、聴力測定を行っています。学校では「検査」ということばは使わず、「測定」ということばを使います。子ども達の聴力を把握し、教育や支援に生かすことを目的としています。オーディオグラムとは、オーディオメーター（聴力を測定する機械）で測定した聴力を記録した図のことです。オーディオグラムに表すことで、測定結果を数値で見るよりもきこえの状態を把握しやすくなります。また、定期的に聴力測定を行うことで、きこえの変化や補聴器の異常等にいち早く気づくことができます。また、幼い子ども達にとっては、聴力測定に慣れていくことで、病院での検査の抵抗を減らすことができます。聴力測定の結果を活用していくことが大切ですので、オーディオグラムの見方を確認しましょう。

縦軸の「聴力レベル dB(デシベル)」とは、音の大きさを表しています。数字が大きいほど大きな音になります。



30~60 dBの間にある帯を「スピーチバナナ」といいます。帯の形がバナナの形に似ているので、そう呼ばれています。日本語の音声範囲を表しています。補聴器を装用したときのきこえが、この間に入るように調整します。

横軸の「周波数Hz (ヘルツ)」とは、音の高低を表しています。数字が大きいほど高い音になります。



次号では、聴力測定の測定値の見方を紹介します。